

20年前のある日、私は神保町をぶらついていました。神保町、正確には神田神保町は東京都心にある街。古書店が立ち並ぶことでも有名です。当時の私は実家から2時間弱をかけて大学に通っていたのですが、その途中で心折れて「まあ、今日はいっか」となるのが、乗換駅のある御茶ノ水のあたり。なんのことはなくて、大学をさばって歩き回っていたのでした。

そんな不良学生にとって、神保町は魅力あふれる街でした。古本ではなく、価値のある「古書」を取り扱う店が多く軒を連ねる神保町には、さまざまなジャンルの専門書や稀少本などがところ狭しと並んでいます。古い手紙やポスターなど、本以外のものもあるのがまた面白く、掘り出しものに出会う楽しみがありました。あっちの古書店、こっちの古書店と覗き回るだけでもあっという間に時間が過ぎていく、素敵な場所だったのです。

さて、その日の散歩の途中、とある店

## <sup>今月のお題</sup> 20年前の思い出

星ナビが創刊された20年前、一学生だった私は神保町をさまよっていました。その時に 出会ったひと巻のフィルムのお話しです。

高梨直紘 (東京大学) / 平松下顕 (国立天文台)

のワゴンセールでひと巻の8ミリフィルムに出会いました。フィルムを収めたその缶には「日本天文学会」の文字と、ぶっきらぼうに書かれた200円の値が。いちおう天文学に関心を持っていた私は、なんとなく惹かれるものがあって購入したのですが、当時の私にはその内容を知る手段がありませんでした。まあ、そのうち確認するか…とそのまま机の中にしまったのが、今から20年前の出来事です。

このことはすっかり忘れていたのですが、1年ほど前に実家に戻った際、部屋を片づけていた母から「これ、あなたのでしょ」と渡されて記憶が甦りました。おお、そういえばそんなの買ったな。中味はなんだろう?興味を持った私はデジタル変換サービスにお願いして、初めてその内容を確かめることができました。それはなんと、1956年の日本天文学会春季年会の様子を映したフィルムだったのです。私の世代では名前しか知らない、あるい



フィルムに写っていた一場面。全編は天プラのウェ ブサイトで公開予定です。

は写真でしか見たことがないような天文 学者が続々と登場する、天文学史的にも 貴重な資料だったのでした。

藤田良雄さん、石田五郎さん、市村喜八郎さんのお名前がクレジットされたそのフィルム。関係者にも協力を仰いで来歴を調査していますが、まだよく分かっていません。いずれ調査結果については報告をしたいと思いますが、このようなフィルムが長い年月を超えて私の手元にあることに不思議な縁を感じます。動画は天プラのウェブサイトでも公開しますので、関心ある方はぜひご覧下さい。星ナビ20周年、おめでとうございます!